

刊夕日一十月三



定版一頁 一ヶ月五拾五圓 郵費五圓  
 印刷部 常磐毎日印刷株式会社  
 發行所 常磐毎日印刷株式会社  
 電話 六三〇〇  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社  
 電話 六三〇〇

僕の空想 【一】

N M Y

人間を萬物の靈長等と云つて自慢して居るが、人間が外の動物より偉いのはどう云ふ所が偉いんだと聞くと、誰れでもイの一番に、「其りや君、腦の發達の相違にあるサ、つまり人間には智慧と云ふものが非常に進んで居るので遂に他の動物を征服してしまつたのサ」とキツト答へる。

素人は誰も之が本當だと思ふだらうが、豈計らんや智慧比べになると、人間が犬や馬に引けをとる様な事がしばしばある。脳味噌の發達が人間をして絶対に威嚇したとは決して云へないのである。

ノート

從一位は 淺野長勳 侯、大勳位は臣下では西園寺公望 公、金鷲勳章功一級は大井成元大將各一人である

絶對的に威嚇したのはソナ事ではない。腰の骨、つまり骨盤の異商發達によつて二本の足で立ちあがれたと云ふ事が、他動物を征服し得た絶對的原因であるドンナ動物でも二本の足で

完全に歩けるものは一つもない。猿が稍可能性を持つてゐるが、之れとても決して人間の如く自由に二本の足に信賴して居る譯にはいかなない。忽ち前足を使ひ四足で匍ひ廻る方がより都合が宜い様だ。

人間は反對に四ツン這ひに成ると云ふ事は不可能でいやが應でも二本の足で立せて歩く。かうなると、二本の手といふものが完全に立つたり歩く事から、解放される。そこで遊ばせて置くのはもつたので、此手を百パーセント有効に使用したいものだと思へたのが脳髓で、其爲めに脳髓の發達を餘儀なくせられたと云ふ次第なのである。

二本空いてる手、之を完全に使用する事より武器の發達、工業の發達、藝術の發達、何一つとして手をわづらはさないものはない。全く人間は二本の手があるお蔭でトモモ幸福な生活に恵まれて居るのである。手で武器を使用出来る爲めに、他の動物は如何に強猛でも、例へば象の如く大力でも、ライオンの如く強くても人間様から、ズドンと一発お見舞ひ申されたらツイの無いものであるかう云ふ次第で人間は、地球を

征服してしまつたのであるサテ、近代文化は益々盛んに發達して來たが、同時に人間の腰は果してソレにつれて共に發達して居るだらうか。今や腰の骨の發達の有無について再吟味を必要とする時ではなからうか

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁 小松菜 小付 富貴豆  
 【書】煮付 がんもどき 小付 奈良漬  
 【晚】清汁 白魚 つくね 鳥 三つ葉 八幡煮 穴子

どうも、近來は腰の骨の發達より腰髓の發達の方が餘程進んで居るやうである其結果が近代文化は色グロテスクな、病的發達を遂げてる感なきを得ないと思ふ之れはいけなさと考へた結果がスポーツの流行となり球でも投げさしたら腰の骨が丈夫になるだらうつな事で、野球が全盛を極め、二本の足で出来るだけ長距離を短時間で起らせたら腰がしつかりするだらうと云ふので、マラソン競争なんてものが發達したものと思はれる。又ダンスの流行等も腰骨の發達をうながす一手段に過ぎないのである。

**吉田眼科病院**  
 醫學士 吉田久雄  
 平町田町 電話三二八番

**藤田女學校** 募集徒  
 文部大臣 認可  
 一、願書受付 三月三十一日マデ  
 二、詳細ハ學則請求ノコト  
 平町田町 (電話三二八番)

**切貸** の御用命は！  
**電話六四〇番**  
**尼子タクシー**  
 是非お願いいたします  
 遠乗りには特に御相談に應じます

**外科科一般**  
**金成醫院**  
 金成 忠 義  
 平鎌田町(電三五八)

**吸入用酸素** 純度 99%  
 度量 モノサシ  
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス  
**開内藥局**  
 電話四〇番

**景品付特選**  
 正確な 眼鏡は... 當店へ  
 獨逸エーブンネ プンクトロヒレンズ 特約店  
 トリックレンズ 亂視其他  
 各種豊富に取揃へてあります

**病に勝て!!**  
 肺病、ロクマク、神經衰弱、營養不良、不眠症其他に...  
**阿部藥舖**  
 平町田町

月曜是非

同情金と反響

近年は義捐金とか同情金... 同情金と反響... 近年は義捐金とか同情金... 同情金と反響...

天覽の光榮

大越中佐の遺書

三軍神の一人として... 大越中佐の遺書... 三軍神の一人として...

義捐金や同情金は、その性質から考へて、勿論、自分の爲めにするものであつたり、何等かの個人的酬ひを求むるものであつてはなからぬと思ふ、即ち己れを無ふして他の幸ひを圖る、犠牲的行爲が敢えて此舉に出でしむるのである、然るに此の代償として己れの美名を世間に喧傳されん事を望むが如きは誠に本末顛倒も甚だしいと云はねばならぬ

美譽を少しも知らなかつた... 天覽の光榮... 美譽を少しも知らなかつた... 天覽の光榮...

はす、その財囊を叩いて喜捨する行爲は、容易に爲すべくして爲し能はざるものがあらう、然も此事が氏個人の蔭徳として果されたものである事を知るに及んで吾人は一層その崇高美に打たれざるを得ない。世の多くの義捐的美譽も斯くの如くであつて始めてその効果を發揚し得べしと信する次第である

奉天會戰に於て悲壯な自刃をとげた内郷村出身歩兵第六聯隊大隊長大越兼吉中佐(當時少佐)は吉岡大佐、橋少佐と共に陸軍部内では三軍神と稱して榮耀の的となつてゐるが橋中佐の如く一般には餘りにその武名を知られてゐないので陸軍省でも非常に遺憾としてゐたところ、十日靖國神社で催された陸軍記念日祝賀式に際し同中佐の遺書ともいふべき鉛筆でしたゝめられた述懐書が長くも大元帥陛下天覽の光榮に浴した、なほ現關東軍參謀副長板垣少將夫人きく子さんは中佐の長女で長男の貢民は帝大農内科に勤務、二男兼二氏は歩兵大尉で滿洲に出動中である、中佐は出征前仙臺幼年學校長を勤めてゐたがその際生徒がある事件の爲め重

諸官及部下と枕を並べて死せんとせしにありき、しかるに残念ながら途中に於て負傷しこの目的を達する能はざりしは返すくも遺憾の極みなり、よつて負傷後自ら死して聯隊長及び同僚並びに部下と共に地下に會せんとせりしかるに右手負傷刀を執るに堪へず仍て拳銃を以て自刃す閣下微衷を察せし茲に多年來の御厚誼を謝して衷情を述ぶる事右の如し終りに閣下の武運長久を祈る三、身体疲勞し筆を執るに困難なり仍し概況を述べ

鎌田橋架替

明年に繰延べ

既報夏井川改修工事の附帯事業として十年工費十二萬圓で行はれる筈であつた鎌田橋の架替工事は工費の都合で本年度は實施せず明年に繰延べられる事になつた

最新式の六十枚橋

磐炭健保議員

高久村地内夏井川の六十枚橋は縣工事として夏井川改修事務所監督の下に豫算五萬圓でコンクリート橋に架替決定したが高橋事務所長は茨城縣鬼怒川の大型橋と同型のものとする爲近く三日間の豫定で同地に出張調査する向新六十枚橋の設計案は長さ二百三十米、水面よりの高さ七米、巾四米半コンクリートパイル式で橋梁中では最も新式のものである

昨日の當選者が決定

内郷村磐城炭健康保険組合にて昨日組合議員の選挙を執行した定員十九名に對し候補者一名超過した爲め可成猛烈な競争を演じ有権者四千七百七十一名中棄権は僅に四百五十八名、當選者は左の如く是れを平均年齢別に見るとは約四十二才、當選者の種別は採炭夫八名、職工六名、支柱夫三名、職員、運搬夫、雜夫名

平局が電話受理

既に加入申込者は優先

平郵便局は来る四月一日から十五日迄十年度電話特別開通の申込を受け付ける事になつたが設備費二百四十圓加入登記料十圓で既に加入申込の登記を有してゐるものは新に登記料を要せず受理法定上優先権を與へられる外既往の加入申込権の譲渡も認められる由、尙詳細は平局に照會されたいと

平町人事

△東京市京橋區銀座五丁目 結婚 姻 木村科醫院 平町六丁目橋際 電話三〇九番

上田耕作

印刷の御用は設備完全の「常磐毎日」へ電話六三〇



印刷の御用は設備完全の「常磐毎日」へ電話六三〇

# 萬歳の聲に

## 翻る日章旗

### 春雨も晴れて

#### 意氣深き昨日

##### 平全町に軍國氣分溢る

日露戦捷卅周年記念翻る日章旗湧き上る萬歳の熱叫朝まだき降り出した春雨も程なくカラリと晴れ渡つて軍民協力、この意義深き日を祝ふ盛大な祝典や各種の催し物に全平町はカーキ色に塗りつぶされた

先づ其の前夜の七時から青訓、在郷軍人分會、各學校生徒その他各種団体員聯合の奉天城攻撃戦を開始同夜九時十分頃敵機襲撃の想定のもとにサイレンが鳴り響いて全町に

約三分間 互り完全な燈火管制を行つた、その間平局樓上に据付けられた機關銃からは豆をいる如く敵軍に向つて攻撃すれば城山高臺に据へられた高射砲、山砲(花火)は暗夜の中空をめかけ或は飯野村谷川瀬の後方に居る敵軍に對して應戦し更らに市内各種に駐頓してた部隊からは一齊射撃

## 大部分は職業線に

### 明日集立つ平商の卒業生

平商の第十五回卒業證書授與式は既報の如く明十二日午前十時から同校講堂に於て舉行されるが卒業生は左記六十五名でこれが就職前は銀行、會社、商店等大部分を占め其他高等商業學校五

- 大須賀 岡野忠 太田昌平 小貫貞雄 大越正吉 大村邑一 片寄進 片寄惣治 片寄登江 木澤三郎 木村春三 木田英夫 草野忠悟 郡司重男 小室壽男 幡八十八 小室壽男 小宮山滿 佐藤馨 佐久間辰夫 佐藤三郎 佐々木武 西丸伸郎 佐々木莊介 眞田久 白土徳男 鈴木正六 澤田良彦 志賀清視 鈴木一 鈴木壯六 高橋園臣 高橋勝一 高橋長美 高木益利 塚本茂 戸田清 戸田政美 永山勝治 中島清幸 南波榮三郎 沼田照 長谷川武夫 日野義雄 福島道雄 堀江正敏 松崎三郎 宮本芳

## 火薬庫近く

### 不審な山火事

#### 危なかつた堀坂地内

昨十日午前十一時頃烈風中に内郷村大字堀坂地内草山より發火、火は枯木を焼拂つて忽ち三十町歩餘に燃焼附近國道に面した大日本火薬會社の火薬貯藏庫があり一時危機に瀕したので此火薬庫に点火しては大變と内郷、平、湯本各消防隊が駆け付け午後一時火薬庫の五十間手前で幸しくも喰ひ止めた、損害は雜草のみなので三十圓程度で済んだが原因は目下平署で調査中である尙當日同火薬庫三棟には三

明日の予報  
十二日  
午後六時 晴  
午後七時 晴  
午後八時 晴  
午後九時 晴  
午後十時 晴  
午後十一時 晴  
午後十二時 晴

今夜の部  
六、〇〇 子供の時間  
お話し「やさしい草花の作り方」  
尾崎哲之助  
後六、二五 基礎英語講座  
岡倉由三郎  
二十一  
〇〇 青年の夕  
後七、三〇 講演「英米の青年教育運動」伯爵二荒芳徳「伊太利と獨逸の青年の飛躍」政治學博士五來欣造  
後八、一〇 マンドリン合奏  
一 宮川哲成 〇 緑川泰次 武藤一男 森文則 山崎明 山野義人 若松武平 渡邊志農夫 綿貫勇 渡邊新兵衛 梅津貞男

明日の部  
前七、〇一 基礎獨語講座 (二十五) 三浦吉兵衛  
前七、三〇 朝の修養「詩經講話」(二) 文學博士鹽谷温  
前九、一〇 料理献立「白菜の紅葉煮」  
前一一、〇〇 母の時間「文學好きの子女を持つ親へ」千葉龜雄  
後〇、〇五 管絃樂 日本放送交響樂團 指揮坂西輝信 歌劇「東洋の女王」序曲「スコットランド」の釣鐘草による布行曲「組曲「繪畫的風景」」  
後二、〇〇 家庭講座「三月四月の育嬰の心得」醫學博士坂本陽

後二、四〇 社會見學「石炭採掘」坑内及坑外作業實況 福岡縣日本製鐵二瀨炭礦より中繼  
後六、〇〇 子供の時間 獨〇と二重〇、二重〇 春風月影淡し「一、獨〇(草淑子)イ乙女の願ひ 〇春の唄  
後八、〇〇 義太夫「彦山權現警助劍」彈語り豊澤梅鶴  
後八、三〇 哥澤 イ戀すてふロ八重ひとへハ苗賣唄 哥澤芝松 三味線芝香 後八、四五 唐人囃子 平板口流水ハ河波ニ金錢花 長崎市町檢番連中 後九、〇五 長唄「傾城」 唄竹屋増子 三味線竹屋 代

## 大浦村で

### マツチ弄り

今十一日午前十時頃大浦村大字下仁井田酒醸造業鈴木花治氏の隣家より發火、折柄の強風に煽られ火は見る／＼燃え擴がり附近一帯十

## 四才の幼児が

### マツチ弄り

#### 大火傷で絶命

内郷村大字宮字蛙子六七樂師松江光男三男彰彦(四)は去る九日午後四時頃庭先でマツチを点火した處衣類に燃移り下腹部腰部等に大火傷を負ひ直に炭礦病院で應急手当を施したが同夜九時遂に絶命した

## 主家の金品を

### 持ち出して

#### 二少年のカフェー遊び

去る八日夜平町南町某カフェーに二少年が女給相手に飲めや唄へと騒いで居るのを平署員が不審に思つて取調ると右は好間村字小谷作

## 一段落の

### 大捕物

#### 例の誘拐事件

既報湯本の酌婦大友花枝の誘拐を組織的に企、平署に檢舉された一味九名は渡部温部長の取調べ書のみで一千枚といふ大部分を示し平署近來にない大捕物である事を物語つて居るが内海勇吾(五)長正夫(二)樹右平(三)の三名は營利誘拐犯として明日身柄を送局され他の高田平八郎、佐藤テヨ、原田豊治、松崎金太郎、播磨謙、小野正の五名は幫助として書類のみ送局身柄は本日釋放され酌婦大友花枝は湯本の抱主に引渡され





# 明治太平記

(禁断挿絵)  
(上巻及上巻)

(作) 寺島征史  
(畫) 野口 漣

## 第七十三回

### 人種問答 (十三)

だが、さういふ茂平次も振袖姿に華やかな女が聲を忍び泣いてゐるさまに無關心ではゐられない。平然と空うそぶいてもその顔にいよ／＼沈痛な光もりが深くなつてくる。

『移民會社をつくつて國內にあふれる人口のハケ場を國外にみつつけようとなさるのかね』

『もちろんです』

『そこで、國外へ移住して何をやるかね』

『百姓ですよ、土に執着してつまり日本民族が外國未開の地に根を植ゑつけるのです』

『なるほど……おや』

また何か茂平次の瞳がそのとき異様に輝いた。嘉右衛門はその眩きにさそはれて視線をたどつてみると、やはり向ふのテーブルの方だ。いつの間にか現れたのか突伏して忍び泣いてゐる洋妾とおとの肩へ手をかけ、ゆり起してゐる一人の開化界に焼けつくやうな強い視線を送つてゐるのだ。

『あれも政府筋の手先か。嘉右衛門さん、今度こそは』

肩へ茂平次は大きな節くれ立つた手をのせた。井手は振かへつて茂平次を睨んだ。

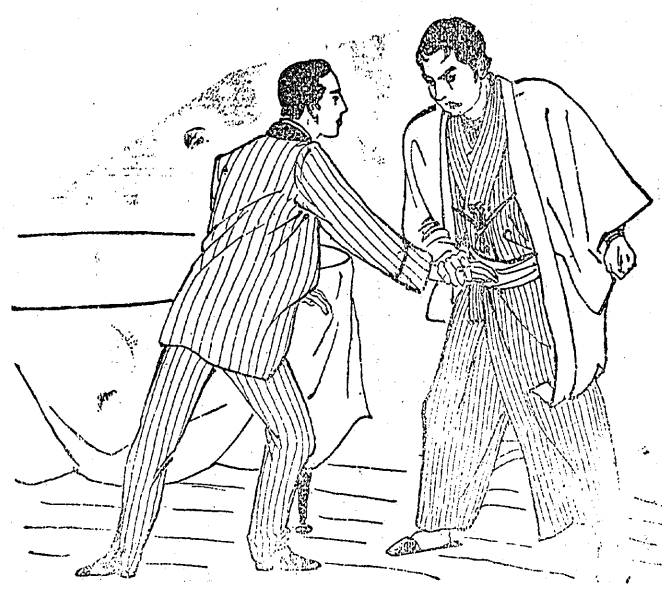
『君は?』

『わしか、わしはこのをなごの伯父でござすよ』

『伯父? そんなことはない手を引きたまへ』

『いや、いまきいてをれば、無理にこのをなごを引立てようとするが、をなごはもう少し泣いてゐたいのぢや、このまゝにして置かつしやい』

『黙れ、吾輩、政府大官の』



頻りにおとわを引立てようとしてゐる。

『うむ……』

茂平次は低く唸つた。立ち上つてそのまゝづか／＼と歩いていった。

『なんでござす、お前さんは?』

おとわの肩へ手をかけてをる開化男、井手六三郎の

『命によつてこれなる女を引立てにまゐつたのぢや、引込んでをれ』

『ほう、ぢや、わしの眼前でこのをなごを引立て、みせるといふのか』

『無論——』

『面白い、やつてみい』

茂平次の大きな手がムンづとばか、井手の手首をと

らへた。

『痛い、はなせ。こ、こりや』

コスメテックの開化男は眉をひそめた。

『痛かつたら、退却しろ。わしが頑張つてをるあひだはこのをなごに一寸でも觸れさせぬぞ』

『せ、政府大官の命令だぞその女を引立てる権限は僕にあるんだ』

井手はなほも瘦犬のやうに吠え立つた。

『何を吐かす。このをなごはおれがあづかつてをるのだ。めつたに他人手に渡してなるものか欲しかつたら腕づくで来い』

警城セメント會社特約店

警城セメント會社特約店

警城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は 〇 の生命なり

藤沼醫院

平町・紺屋町 電話五〇七番

市子おさき

魚問屋

店理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 (三一二電)目丁四平

内科 川井内科診療所

川井安子

平南町(電話二四三)

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男

平町田町(電話五八番)

藤田女學校前

夜間診療

胃腸科 皮膚科

花柳病科 性病科

松村村松 院醫科性病胃腸 (番七〇一電町南町平)

非常時の女性に促す

婦人職業の近道に 産婆看護婦を御選み下さい

それには成績の最もよいと定評のある

平南町 産婆看護婦學校へ

平産婆看護婦學校

校長 清野キヨ子 (電話三〇七番)

△申込み成るべく早く △新學期の開始は四月八日より